

なかがみ

第153号

編集と発行
中部農業改良普及センター
〒904-2155 沖縄県沖縄市美原1丁目6番34号
(沖縄県中部合同庁舎2階)
電話098-894-6521
FAX098-937-2502

所長あいさつ

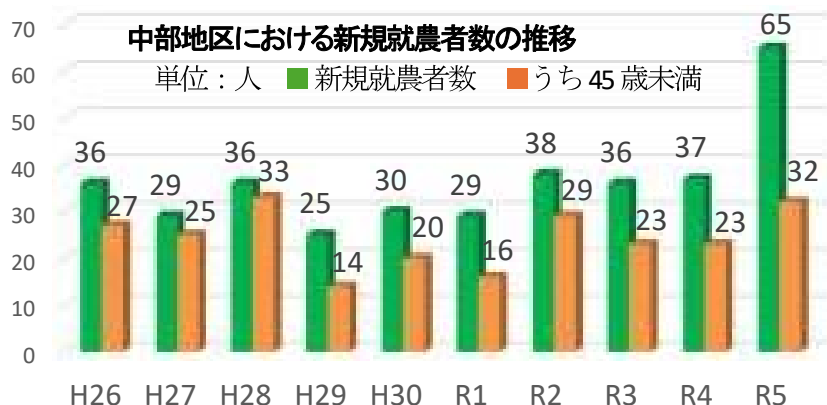
謹んで新年度のご挨拶を申し上げます。農業者の皆様や関係機関の皆様には、平素より農業改良普及事業にご協力を賜り感謝申し上げます。今年度も何卒よろしくお願い申し上げます。

ご承知のとおり、農業担い手の育成は、喫緊の課題であり継続的な育成・支援が必要です。

下記のグラフは、直近10年の中部地区における新規就農者数の推移です(沖縄県青年等実態調査より)。管内の新規就農者数は、年度によりバラつきがあり、令和5年度は65名と増加しております。その要因は、令和5年4月に農地を取得する際の下限面積が撤廃されたことで増加したと思われます。管内は都市化が著しく、農地の確保が大きな課題であり市町村で策定された地域計画に位置づけられる担い手の育成はより一層の支援が求められます。

今年度は、チーム体制を構築し、新規就農者の伴走支援や次代の農業士と成すべきモデル農家の育成を職員一丸となって集中的に取り組んで参ります。

(所長 根路銘)



令和7年度普及活動体制



台風に負けない！露地・施設別の対策事例紹介

毎年やってくる台風。強風や大雨は作物や施設に大きな被害をもたらします。少しの工夫で被害を減らせることもあります。ここでは、実際に取り組まれている対策を紹介します！

1. 露地作物の対策①

・ネットがけ（葉野菜、ウリ類、苗など）

葉物野菜やへちまは、ネットをかけることで台風被害を軽減できます。ただし、ネットが飛ばされないよう、上下つま面を覆土で押さえたり、側面を鉄筋で固定するなどの工夫が必要です。ネットを二重にかけて強度を高める事例もあります。



コマツナ栽培でのネットがけ

・切り戻し、フラワーネット、ハウスバンド（オクラ、モロヘイヤなど）

切り戻しを行うことで倒伏防止につながり、台風被害の軽減が期待できます。フラワーネットやハウスバンドで固定する方法もあります。数本ずつ束ねる対策も見られますが、束ねすぎると根が地上に出ることがあるため、余裕をもってまとめることが大切です。



切り戻し+ハウスバンド

・排水対策

台風前には畑周辺の排水溝や用水路を点検し、水が流れやすい状態にして冠水を防ぎます。あわせて、雨水の流れ込みを防ぐ対策も重要です。



雨水流入防止対策

2. 施設（ハウス）の対策②

・ビニールの巻き上げ・開放

強風時はビニールを巻き上げ、サイドを開放して風を逃がすことで、骨組みの破損を防げます。ただし、ハウスの構造や設置状況により対策は異なるため、状況に応じた対応が必要です。

・周辺の整理整頓

ハウス周囲の飛ばされそうな資材を片付けることも大切です。飛来物による破損を防げます。

～指導農業士I氏(うるま市)に聞いた施設栽培(ハウス)での台風対策！！～

Q. 台風対策で大事なことは何ですか？

A. 台風の時期は、無理に作物を植えないってのが一番の対策だよ。飛ばされたり潰れたりしたら元も子もないからな。リスクを承知で植えることもあるけど、その分しっかり備える必要がある。思い切ってこの時期は植えず、冬秋期で稼ぐって考え方もあるよ。

Q. 台風が来た時の圃場管理で工夫している点を教えてください。

A. 以前、10月ごろに台風が来たときに、ちょうど苗を植えたばかりだったから、2ミリの青ネットをかけて、その上から土のう袋でしっかり押さえたんだよ。そしたら被害を軽減できたよ。太陽熱消毒するときも、シートが飛ばされんように土のうでガッチリ抑えてるよ。

3. 最後に③

「大丈夫だろう」と油断せず、早めに準備しておくことが大切です。台風が来るたびに改善を重ねて、被害を最小限に抑えていきましょう！！

果樹の夏場の管理（暑さ、日焼け対策、台風対策）



マンゴーの日焼けは一瞬で発生！

これから夏に向かって気温が高くなり、特に梅雨時期の晴れ間や梅雨明け後はハウス内の温度が急上昇します。

換気が悪い等のハウスでは、4月でもマンゴー果実の日焼け果が発生しています。また、遮光率の悪いビニールや防風ネット等を長期に張った場合、遮光を除去し急激な温度上昇で日焼けが発生した事例もあります。

事前の暑さ対策をしっかりと行い、大切に育ててきた果実を守りましょう。

暑さ・日焼け対策



妻面ビニールは空けられるように工夫され、前方のネットを目合いの大きいものに変更し、風通しをよくしている事例

1. ハウスの換気を良くしましょう

・ハウス天面ビニールは巻き上げます。また、天面が空けられない場合は、妻面のビニールを開ける等ハウスの換気を良くしましょう。

・日焼け防止のために袋がけをしましょう。ハウス内で高温になりやすい場所やハウス面積が大きい場合は、計画的に早期袋がけをしましょう。

2. 袋掛けや遮光ネットを被覆しましょう

・袋がけが間に合わない場合などは、緊急的に遮光ネットを被覆することで日焼け果対策になります。ビニールを解放することで熱気を逃す効果があります。

台風前後の対策

永年作物である果樹では台風による樹への被害が数年間影響することもあります。日頃から台風に備えて事前の対策を行いましょう。

<日頃>

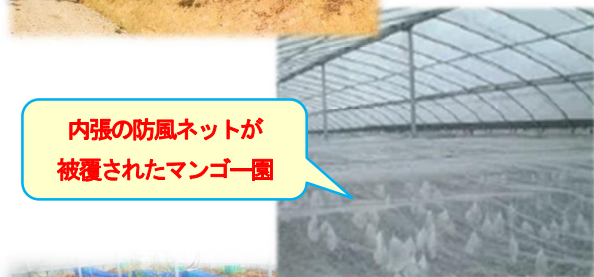
- ① 防風林、防風垣の設置や管理
- ② 園地の排水性や風当たりの状況など周辺環境を把握する
- ③ 施設の点検や補修（ハウスバンドの計画的な交換など）



防風林とネットが張られた柑橘園

<台風襲来前>

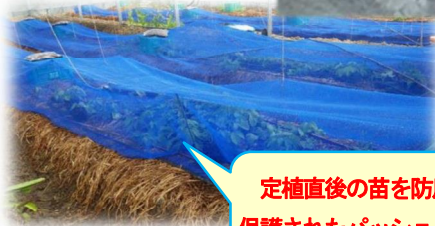
- ① 台風の進路、降雨量などの情報把握
- ② 強風で破損を防ぐためハウス出入り口、天窓巻き上げなどを固定する
- ③ ハウス内に内張の防風ネットを被覆する



内張の防風ネットが被覆されたマンゴー園

<台風通過後>

- ① 台風対策でパッションの蔓を下ろした苗は長期間そのままにせず、通過後は早めに蔓をあげる、マンゴーの内張ネットは開けるなど、台風対策のやりっぱなしにはしない
- ② 塩害を防ぐため、樹についた塩分を水で洗い流す



定植直後の苗を防風ネットで保護されたパッションフルーツ園

畑の土を守り、赤土流出防止に取り組もう！

農地では土地を耕す時、農作物の収穫後や更新時など、畑が裸地状態になる時期に赤土等の流出が起こります。自然環境と大切な耕土を守るため、赤土等の流出対策に努めましょう。主な対策として、**土層および土壌の改良**、**表流水のコントロール**、**土壌表面の保護**、があります。

1. 土層および土壌の改良

雨水を保水・地下浸透させ、赤土等をほ場外に流出しにくくすることが重要です。土層内に硬盤（心土）があることにより、ほ場の排水性が悪くなります。そのため、サブソイラー等により心土破碎し、雨水の地下浸透を促しましょう。



写真1. 心土破碎の様子

2. 表流水のコントロール

畑の周りにゲットウやベチバー等を帯状に植えることで、降雨による土壌流出を抑える効果があります。ベチバーは地中深く、広く根を張り土壌の保持力を高めるため、赤土等の流出を防ぐことができます。



写真2. さとうきび畑の周辺に植え付けたベチバー



写真3. ベチバーの根

3. 土壌表面保護

農作物を植えない時期にクロタラリアやヒマワリ等の緑肥作物を植えて畑の裸地化を防ぎます。また、これらは肥料としての効果や雑草の抑制効果も期待できます。

皆さんが育てた大切な
土壌を守りましょう！



写真4. エン麦類（ハイオーツ）の栽培